市民局指定管理者審査選定委員会議事概要

1　日　時　　令和７年１０月２日（木）　９時００分～１８時１５分
2　会　場　　さいたま市役所西会議棟　第６会議室
3　出席者　（委 員）角谷委員長、穴見委員、長谷川委員、山口委員、丸屋委員、渋谷委員、小林委員
（事務局）市民生活安全課
4　諮問内容と答申結果
指定管理者候補者案について諮問を受け、次のとおり答申した。

	施設名称	施設数	募集方法	指定期間	申請団体
ア	さいたま市馬宮コミュニティセンター外３施設	4	公募	令和８年４月１日から令和１３年３月３１日まで	◎公益財団法人さいたま市文化振興事業団 シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社北関東支店
イ	さいたま市東大宮コミュニティセンター外４施設	5	公募	令和８年４月１日から令和１３年３月３１日まで	◎公益財団法人さいたま市文化振興事業団
ウ	さいたま市南浦和コミュニティセンター外５施設	6	公募	令和８年４月１日から令和１３年３月３１日まで	◎公益財団法人さいたま市文化振興事業団
エ	さいたま市美園コミュニティセンター外３施設、老人憩いの家ふれあいプラザ	4	公募	令和８年４月１日から令和１３年３月３１日まで	◎公益財団法人さいたま市文化振興事業団（※１）
オ	さいたま市武蔵浦和コミュニティセンター	1	公募	令和８年４月１日から令和１３年３月３１日まで	◎オーエンス・アイルグループ
カ	さいたま市市民活動サポートセンター	1	公募	令和８年４月１日から令和１３年３月３１日まで	◎公益財団法人さいたま市文化振興事業団

※１　老人憩いの家ふれあいプラザについては、福祉局所管施設と一体公募のため、委員会としての点数を福祉局に報告することになった。

5　議事要旨
（1）さいたま市馬宮コミュニティセンター外３施設の指定管理者候補者案の選定について
公募により募集を行った結果、２つの団体から申請があった。提出された事業計画書等に基づき、申請団体によるプレゼンテーション及び各委員からの質疑等を行った後、申請団体のうちいずれかを指定管理者の候補者案とするかについて審査を行った。

【質疑等】
・申請団体Ａ（公益財団法人さいたま市文化振興事業団）への質疑応答

Q　利用率を向上させていくためにどういった取組を考えているか。
A　様々な事業の実施を契機として、生涯学習活動へ結び付けることで、継続的に利用し

ていただけるような取組を考えている。また、利用率が低い時間帯に講座を計画するなど、利用率の向上に努めていきたい。

Q　利用率向上の数値目標は。
A　前年比で３～５％ずつの増加を目標に、５年間で１５～２０％の増加を目標としている。

Q　トレーニングルームを使用するにあたって審査等はあるのか。
A　審査はない。

Q　館長が不在だった場合、安全体制に影響はないか。
A　Teams 等を活用することで、職員同士で常に情報共有ができる体制を整えている。
また、有事の際には、本部や近隣の施設とも連携しながら迅速な対応に努める。

Q　Wi-Fi の導入時期は。
A　令和８年度中の導入を予定している。

Q　手話ができる職員はいるのか。
A　さいたま市が実施している手話講座に参加しており、基礎的な手話が可能な職員はいる。また、筆談ボードを導入し、手話が必要な方にも対応できるようにしている。

Q　事業の対象が主に高齢者と子供となっているが、単身者や中年層の利用は見込まないのか。
A　中年層や単身者を対象とした料理講座や、ジャズコンサート等の実施を計画しており、それらの企画をきっかけとして、コミュニティセンター利用を促す予定である。

・申請団体Ｂ（シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社北関東支店）への質疑応答

Q　団体の財務状況について、短期貸付金が増加しているが、経営基盤に影響はないか。
A　グループ会社内での短期貸付金であり、現在は解消している。

Q　コミュニティセンターまつりについて、現在は年１回開催としているところが多いが、年２回の開催を計画している理由は。
A　コミュニティセンターまつりは需要が高いものと認識しており、地域交流を生み出す機会として意欲的に取り組む予定であるため。

Q　英会話教室について、隔月で年６回の開催では少ないように感じるが、その理由は。
A　他事業も複数計画していることから、開催スペースの確保が困難になることが想定さ

れるためである。御指摘のとおり、隔月の開催では少ないことも考えられるため、各事業の回数や時期等については、参加者のニーズを踏まえ適切に検討する。

Q　基本的な職員配置については資料に示されているが、土日、祝日等はどのように対応するのか。
A　土日、祝日等については、イベントが多く予定されることから、職員を増員させるなど柔軟に対応する。

Q　事業費について、指定管理期間の初年度は管理運営を開始するにあたり計上するべき費用が多くあると思うが、全て事業計画に計上されているという認識でよいか。
A　御指摘のとおり、初年度はホームページの開設費用等をはじめ、他年度と比較して経費が多くかかる部分もあるが、全て事業費に計上している。

Q　管理運営にあたっては、新たに人材を採用する予定なのか。
A　基本的には在籍職員を配置する予定であるが、不足等があれば新規採用も検討する。

【結果】
市民局指定管理者審査選定委員会において、さいたま市馬宮コミュニティセンター外３施設の指定管理者候補者案を審査した結果、公益財団法人さいたま市文化振興事業団の得点は１，４０９点であった。また、公益財団法人さいたま市文化振興事業団は現指定管理者であることから、実績評価点４４．１点を加え、合計１，４５３．１点であった。
次に、シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社北関東支店の得点は１，２３２．３点であり、いずれも最低制限基準である６０％（１，０５０点）を超えていた。
以上の結果から、公益財団法人さいたま市文化振興事業団を指定管理者候補者案として答申することを決定した。

（２）さいたま市東大宮コミュニティセンター外４施設の指定管理者候補者案の選定について
公募により募集を行った結果、１つの団体から申請があった。提出された事業計画書等に基づき、申請団体によるプレゼンテーション及び各委員からの質疑等を行った後、申請団体を指定管理者の候補者案とするかについて審査を行った。

【質疑等】
・申請団体Ａ（公益財団法人さいたま市文化振興事業団）への質疑応答

Q　財務状況について、近年赤字が続いているようだが、改善する見込みはあるか。
A　経営改善を進めており、今年度は黒字となる見込みである。

Ｑ　「キッズチャレンジ！！」事業ではどのような講座を予定しているか。
Ａ　料理や陶芸、絵画、プログラミングなど様々な内容の講座を実施する。

Ｑ　市民団体の育成についてはどのように考えているか。
Ａ　市民活動サポートセンターと協働し、出前講座等を実施することで、市民団体間の交流促進を図る予定である。

Ｑ　災害に対する訓練はどのようなものを実施するのか。
Ａ　年２回の消防・避難誘導訓練及び年１回の防災訓練を実施する。

Ｑ　高鼻コミュニティセンターは利用率が低いという現状があるが、どのような新規事業を検討しているか。
Ａ　新規事業として、「じっくり学ぶ絵画講座」、「大人の書道講座」、「籐工芸講座」を計画している。

【結果】
市民局指定管理者審査選定委員会において、さいたま市東大宮コミュニティセンター外４施設の指定管理者候補者案を審査した結果、１，４３２点となり、最低制限基準である６０％（１，０５０点）を超えていた。また、公益財団法人さいたま市文化振興事業団は、現指定管理者であることから、実績評価点４４．１点を加え、合計１，４７６．１点となった。
以上の結果から、公益財団法人さいたま市文化振興事業団を指定管理者候補者案として答申することを決定した。

（３）さいたま市南浦和コミュニティセンター外５施設の指定管理者候補者案の選定について
公募により募集を行った結果、１つの団体から申請があった。提出された事業計画書等に基づき、申請団体によるプレゼンテーション及び各委員からの質疑等を行った後、申請団体を指定管理者の候補者案とするかについて審査を行った。

【質疑等】
・申請団体Ａ（公益財団法人さいたま市文化振興事業団）への質疑応答

Ｑ　地域と連携した取組として、どのようなものを計画しているか。
Ａ　地域の社会福祉協議会や図書館と連携し、子ども向けの映画会の開催や、利用団体及び近隣小学校による作品展示会の開催等を計画している。

Ｑ　情報発信について、どのような方法を検討しているか。
Ａ　公共施設各所や市内ＪＲ及び私鉄各駅等に文化発信情報誌を配布しているほか、市の

広報誌への掲載や、自治会及び小学校へのチラシ配布、その他ＳＮＳ等での情報発信を検討している。

Q　施設によって配置職員の人数が異なるが、職員が少ない施設でも危機管理体制に問題はないか。
A　施設職員同士で常に情報共有ができる体制を整えているほか、緊急時には本部及び近隣の指定管理施設とも連携し、適切に職員を派遣するなど、バックアップ体制を構築している。

Q　上峰コミュニティホール及び西与野コミュニティホールは利用率が低いという現状があるが、利用率を向上させるための新規事業はあるか。
A　新規事業として、絵画講座や布草履作り講座、スイーツ作り講座等を計画している。

Q　利用率を向上させるためには、単発の事業ではなく、継続した事業展開が望ましいと思うが、新規事業において単発での開催を予定している理由は。
A　まずは各事業に参加していただきやすいように単発での実施を計画している。一方で、御指摘のとおり、継続的に事業を展開することが利用率の向上にもつながるため、利用者ニーズ等を考慮しながら適切に事業を実施していきたい。

【結果】
市民局指定管理者審査選定委員会において、さいたま市南浦和コミュニティセンター外５施設の指定管理者候補者案を審査した結果、１，３５４点となり、最低制限基準である６０％（１，０５０点）を超えていた。また、公益財団法人さいたま市文化振興事業団は、現指定管理者であることから、実績評価点４４．１点を加え、合計１，３９８．１点となった。
以上の結果から、公益財団法人さいたま市文化振興事業団を指定管理者候補者案として答申することを決定した。

（４）さいたま市美園コミュニティセンター外３施設、老人憩いの家ふれあいプラザの指定管理者候補者案の選定について
公募により募集を行った結果、１つの団体から申請があった。提出された事業計画書等に基づき、申請団体によるプレゼンテーション及び各委員からの質疑等を行った後、申請団体を指定管理者の候補者案とするかについて審査を行った。

【質疑等】
・申請団体Ａ（公益財団法人さいたま市文化振興事業団）への質疑応答

Q　駐車場において混雑回避のための工夫はあるか。
A　公共交通機関の利用を促進するとともに、混雑時には民間駐車場へ誘導するようにし

ている。また、イベント等で更なる混雑が予想される場合は、警備員を配置し、駐車場内の安全管理や違法駐車等への対応も行う。

Q　防災型キャンプ講座の実施場所及び講座内容は。
A　近隣の公園で実施し、アウトドア活動を通じて火の起こし方や、テントの設営方法、災害時の野外調理法など、実践的な活動の中で防災技術を習得する。

Q　市民団体の活動支援体制は。
A　団体として継続的な活動ができるよう、市民相談コーナーを設け、職員が助言等を行っている。

Q　市民活動団体が継続して活動ができるように、各施設に適切な助言ができる職員は配置されているのか。
A　全職員が対応可能である。

【結果】
市民局指定管理者審査選定委員会において、さいたま市美園コミュニティセンター外３施設、老人憩いの家ふれあいプラザの指定管理者候補者案を審査した結果、１，４２８点となり、最低制限基準である６０％（１，０５０点）を超えていた。また、公益財団法人さいたま市文化振興事業団は、現指定管理者であることから、実績評価点４４．１点を加え、合計１，４７２．１点となった。
以上の結果から、公益財団法人さいたま市文化振興事業団を指定管理者候補者案として答申することを決定した。

（５）さいたま市武蔵浦和コミュニティセンターの指定管理者候補者案の選定について
公募により募集を行った結果、１つの団体から申請があった。提出された事業計画書等に基づき、申請団体によるプレゼンテーション及び各委員からの質疑等を行った後、申請団体を指定管理者の候補者案とするかについて審査を行った。

【質疑等】
・申請団体Ａ（オーエンス・アイルグループ）への質疑応答

Q　代表企業と構成企業によるグループ会社とのことだが、現場の指揮命令系統はどちらか。
A　代表企業、構成企業の所属団体に問わず、指揮命令系統を構築している。

Q　危機管理体制や情報管理体制について、代表企業、構成企業のどちらのものを適用しているのか。

Ａ　危機管理や情報管理等の現場運営に必要な規定は施設独自のものを策定し、運用している。現場運営に必要な事項は毎月実施される運営会議で協議し、決定している。

Ｑ　館長は代表企業なのか。
Ａ　お見込みのとおり。

【結果】
市民局指定管理者審査選定委員会において、さいたま市武蔵浦和コミュニティセンターの指定管理者候補者案を審査した結果、１，３０４点となり、最低制限基準である６０％（１，０５０点）を超えていた。また、オーエンス・アイルグループは、現指定管理者であることから、実績評価点４４．１点を加え、合計１，３４８．１点となった。
以上の結果から、オーエンス・アイルグループを指定管理者候補者案として答申することを決定した。

（６）さいたま市市民活動サポートセンターの指定管理者候補者案の選定について
公募により募集を行った結果、１つの団体から申請があった。提出された事業計画書等に基づき、申請団体によるプレゼンテーション及び各委員からの質疑等を行った後、申請団体を指定管理者の候補者案とするかについて審査を行った。

【質疑等】
・申請団体Ａ（公益財団法人さいたま市文化振興事業団）への質疑応答

Ｑ　団体の財務状況について、収益が減少している要因は何か。
Ａ　数年前に利用料金制による指定管理施設の管理運営を開始したが、想定よりも利用料金収入が伸びなかったことが主な要因である。

Ｑ　人員体制について、統括責任者は館長が担うのか。
Ａ　お見込みのとおり。

Ｑ　提案内容の交流ネットワークの構築について、今回の指定管理期間で新たに構築するものなのか。
Ａ　長年、市内公立施設の管理運営に携わる中で構築してきた交流ネットワークを基盤として、更なる強化を図っていくものである。

Ｑ　利用者からの要望、苦情等をどのように職員に共有しているか。
Ａ　毎月開催する施設改善会議にて共有、分析をするとともに、引継簿に明記することで全体への共有を行っている。

Q　施設改善会議の構成メンバーは。
A　正規職員で構成している。

Q　情報発信について、Xで実施するとの記載があるが、Instagramでは実施しないのか。
A　Instagramを使用した広報についても検討しているところである。

【結果】
市民局指定管理者審査選定委員会において、さいたま市市民活動サポートセンターの指定管理者候補者案を審査した結果、１，３９７点となり、最低制限基準である６０％（１，０５０点）を超えていた。また、公益財団法人さいたま市文化振興事業団は、現指定管理者であることから、実績評価点４４．１点を加え、合計１，４４１．１点となった。
以上の結果から、公益財団法人さいたま市文化振興事業団を指定管理者候補者案として答申することを決定した。

以上